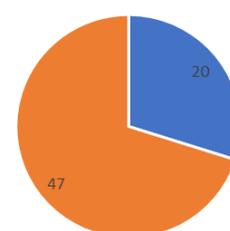


学校における医療的ケアは不十分なのではないか

学校ではたんの吸引や経管栄養、気管切開部の衛生管理、導尿、インスリン注射などの医療的ケアが行われており、医療的ケアが必要な児童生徒に対する教育の充実化が図られています。しかし、このような学校における医療的ケアにはまだ課題があるのです。

学校で医療的ケアを行うには、学校（教員）と看護師が十分に連携をとって互いの専門性をいかすことが必要不可欠ですが、実際に学校に看護師を配置している学校は少なく、看護師が配置されていたとしても常駐していない場合もあります。右のグラフは67の自治体に看護師の配置等の状況の調査を行った結果で、教育現場において看護師が配置されている所が少ないことが分かります。また、人工呼吸器を使用している児童生徒の場合は看護師が対応できないことになっているため学校には保護者が付き添わなければいけず、医療的ケアが必要な児童生徒が充実した教育を受けられているとは言えません。実際に医療的ケア児の家族の中にも「学校に通わなくていいと言われてるよう」や「世の中から見捨てられている気がする」と感じている人がおり、医療的ケア児本人やその家族がこのように感じているのであれば、十分な教育を提供できているとは言えないと思います。

看護師の配置等の状況



■ 配置等している ■ 配置等していない

そこで、学校と児童生徒の家族、主治医が密接に連携して医療的ケアに関して話し合うことで、教員や学校に配置されている看護師が個々の児童生徒に適した医療的ケアを行うことに繋がると考えます。法律の改正によって行える医行為が増えたり、看護師だけでなくヘルパーも医療的ケアを行う人材として雇ったりするという案もありますが、教員や看護師、主治医などが児童生徒に対して十分な教育を提供するという意識を共通してもつことが特に重要だと感じました。

〈参考文献〉

学校における医療的ケアの現状と学校に勤務する看護師の役割について,
https://www.mext.go.jp/content/20200610-mxt_tokubetu02-000007673_01.pdf,
閲覧 2023/1/2